



2004年10月4日

日米英韓のトップレベルキャリア間でインタオペラビリティ試験を開始

～セキュアで安全安心なIP電話・映像コミュニケーションの実現を目指し、IPv6ベースの映像通信を中心に検証し、グローバルスタンダードの確立を行う～

日本電信電話株式会社（以下NTT、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：和田紀夫）は、NGN(Next Generation Network)実現に向けた実装仕様を検討する国際的な業界団体であるMSF（※1）が主催する国際キャリア間のインタオペラビリティ試験「GMI2004」（※2）に参加し、日本、北米、欧州、韓国の複数サイトを結んだネットワークにおいて、映像、音声サービスに着目したインタオペラビリティ試験を10月4日から16日にかけて実施します。

本試験でNTTは、NGNの実現形態のひとつとして世界に先駆けて提唱し、オープンな取り組みを展開しているレゾナントネットワークアーキテクチャ構想「RENA」（※3）の研究開発成果を持ち込み、IP電話のマルチベンダ環境での動作確認や接続性の検証をグローバルに実施するのみならず、セキュアで品質を確保されたIPv6ベースの映像コミュニケーションの接続性の検証を行います。

これにより、研究成果が世界標準に則っており、海外キャリアともつながるグローバルな接続性を持っていることを実証し、セキュアで安全安心なIP電話・映像コミュニケーションの実現を目指し、実装的観点から先進性があることを示していきます。

NGNはすでに、近未来に向けた研究課題ではなく、ビジネスレベルで実装仕様を固めて具体的な製品に入れていく段階に来ています。NTTは、本試験によってRENAアーキテクチャの技術検証を行い、研究開発成果をより信頼性の高いものにして世界にアピールしていきます。

1. インタオペラビリティ試験の背景

情報通信市場の環境は、ナローバンドからブロードバンドへの大きな変革の波に加え、固定通信・移動通信の双方でのインターネット利用の急増とも相まって、「高速・広帯域」「常時接続」「双方向性」「音声/データ統合」などをキーワードとする本格的なブロードバンド・ユビキタス時代を迎えつつありま

す。

こうした中、NGNの構築に向けた議論が国際的な進展を見せ、広範なサービスを柔軟に提供できるNGNをオープンな環境で経済的に実現することを目的としてMSFが設立され、標準仕様ではなく実装仕様を検討対象とする活動が開始され、2002年11月には日米英のサイトを結んだネットワークでマルチベンダ環境における初めてのインタオペラビリティ試験「GMI2002」が実施されました。

一方、日本のキャリアとしてGMI2002に参加したNTTは、NGNの実現形態の1つとしてRENAを世界に先駆けて提唱し、電話網の「高い品質と信頼性」とIP網の「柔軟性と経済性」の長所を兼ね備えたIPv6ベースのネットワークの構築に向け、RENAに関連するネットワーク基盤技術および多彩なサービスを支えるプラットフォーム技術の研究開発、ならびにビジネスコンセプトの創造などに取り組んできました。

MSFにおいて、NTTは「MSFアーキテクチャとRENAアーキテクチャの整合」「研究成果の仕様を積極的に盛り込む」などを活動項目としており、特に2004年は研究成果アピールを重点活動項目とし、標準インタフェースとしての実証を目的としてGMI2004に参加しています。

2. インタオペラビリティ試験の内容

(1) 試験サイト

アジア、欧州、北米の以下の4サイト（キャリア）を結んだネットワークでインタオペラビリティ試験が実施されます。

- ・アジア：日本（NTT）、韓国（KT）
- ・欧州：英国（BT）
- ・北米：米国（Qwest）

(2) 試験項目

GMI2002においてはIP電話を中心にマルチベンダ環境における接続性を確認しました。今回のGMI2004において、NTTは世界に先行して日本国内でビジネス化が進行しているIPv6ネットワークをベースとし、SIP（※4）サーバや帯域管理技術などに関する研究成果を持ち込み、

- ・映像コミュニケーションのグローバルインタオペラビリティ試験 (IPv6, IPv4)
- ・帯域管理技術を用いたQoS通信試験(IPv6)
- ・暗号化技術によるセキュア通信試験(IPv6)
- ・IP電話のグローバルインタオペラビリティ試験(IPv4)

について、MSFで規定される実装仕様に則した接続性を確認します。

この試験により、研究成果が世界標準に則っており、海外キャリアともつながるグローバルな接続性を持つことを実証し、セキュアで安全安心なIP電話・映像コミュニケーションの実現を目指し、実装的観点から先進性があることを示していきます。

3. 今後の予定

お客様に利用していただく新しい製品・技術を開発するためには、技術のグローバルな潮流と市場動向に合った研究テーマを選定することが重要です。

NTTではGMI2004の試験結果を踏まえ、より信頼性の高い研究成果を世界にアピールし、広範なサービスを柔軟に提供できるNGNの経済的な実現に寄与するために、今後も研究開発を推進していきます。

<用語解説>

※1 MSF (Multiservice Switching Forum)

NTTなどの世界各国のキャリア、サービスプロバイダ、システムサプライヤが中心となって1998年11月に発足し、現在では30社以上が参加。特にマルチメディアに焦点を置き、アーキテクチャの策定、実装協定 (IA) の策定、インタオペラビリティ試験の実施などの活動を通じ、サービス間の連携やオペレーションの統合などを目指して業界の橋渡しの立場で活動を展開している。

※2 GMI (Global MSF Interoperability)

MSFが主催するグローバルなインタオペラビリティ試験。2002年11月に日米欧のマルチロケーションにおけるマルチベンダ環境で初めてインタオペラビリティ試験を実施し、今回のGMI2004は2回目のインタオペラビリティ試験に当たる。

※3 RENA (REsonant communication Network Architecture)

NTTの「“光”新世代ビジョン」の核となる次世代ネットワークアーキテクチャ。NTTでは光による新世代コミュニケーション環境として、レゾナントなコミュニケーション環境の実現を目指して研究開発を推進している。レゾナント (resonant) は英語の「共鳴する、共振する、響く」の意味をもつ動詞 (resonate) の形容詞形で、人や企業など世の中のあらゆるものが共鳴しながら進歩していくという考え方。

※4 SIP (Session Initiation Protocol)

VoIPサービスに採用されている通信プロトコルの1つ。インターネットアプリケーションとの連携に適し、マルチメディアサービスとの親和性も高いという特徴があり、次世代のマルチメディアサービスへの応用が期待できるプロトコルとして注目されている。

NTT情報流通基盤総合研究所
企画部 広報担当 遅塚（ちづか）、佐野、井田
TEL：0422-59-3663
E-mail：koho@mail.rdc.ntt.co.jp

NTT ニュースリリース 

Copyright(c) 2004 日本電信電話株式会社